

2018年度 第3学年シラバス

国語	P. 2～3
数学	P. 4～6
地歴公民	P. 7～12
理科	P. 13～17
英語	P. 18～20
保健体育	P. 21
芸術	P. 22～24
家庭	P. 25

年 間 指 導 計 画

1. 教科・科目、担当者

教科・科目	授 業 担 当 者	学 年 ・ コー ス	単 位 数
国語・現代文	大森 悦子	3年・全	文Ⅱ 3 文Ⅰ・理 2

2. 使用教科書・副教材

使用教科書(出版社)	現代文 B (桐原書店)
使用副教材(出版社)	全 錬成現代文(尚文出版) 常用漢字必携 ^ハ ーフェクトクリア(尚文出版) 文Ⅱ 国語常識と SPI の学習 ^ハ ワーアップ ^ノ ート(尚文出版) 現代語練習帳ことのは(いいずな書店)

3. 各期の学習内容・評価方法

学期	学 習 内 容	評 価 方 法
前 期 中 間	作文 自己紹介 読書記録 評論 『木を伐る人／植える人』 『「である」ことと「する」こと』 小説 『檸檬』	作文 ノート ペアワーク 考査
前 期 末	作文 読書記録 評論 『日本文化私観』 小説 『濃紺』	作文 ノート グループワーク 考査
後 期 中 間	作文 書評 評論 『市民社会化する家族』 小説 『舞姫』	作文 ノート グループワーク 考査
後 期 末	総復習	問題演習 小テスト

4. 学習方法(ノートの取り方、家庭学習の方法、その他留意点等)

単元毎に授業で指示。
その時間の目標(正確に読む、慣用句を理解する、要点をつかむ、登場人物を把握する等)を常に意識して臨むこと。

年 間 指 導 計 画

1. 教科・科目、担当者

教科・科目	授 業 担 当 者	学年・コース	単位数
古典	小原 太郎	3年 文Ⅰ・文Ⅱ・理系	文ⅠⅡ4単位 理系3単位

2. 使用教科書・副教材

使用教科書(出版社)	古典B (桐原書店)
使用副教材(出版社)	新訂国語便覧 (第一学習社) 体系古典文法 (数研出版) 漢文必携 (桐原書店)

3. 各期の学習内容・評価方法

学期	学 習 内 容	評 価 方 法
前 期 中 間	伊勢物語「初冠」 更級日記「門出」 漢詩	週課題・提出物 単語小テスト 授業観察 考査 等
前 期 末	枕草子「春はあけぼの」「うつくしきもの」「中納言参りたまひて」 大鏡「三船の才」 史記「鴻門の会」	週課題・提出物 句形小テスト 授業観察 考査 等
後 期 中 間	源氏物語「光源氏の誕生」 和歌「春秋」 史記「四面楚歌」 孟子	週課題・提出物 単語・句形小テスト 授業観察 考査 等
後 期 末	文Ⅱ：蜻蛉日記「嘆きつつひとり寝る夜」 文Ⅰ・理系：問題演習	提出物 単語小テスト 授業観察 考査 等

4. 学習方法(ノートの取り方、家庭学習の方法、その他留意点等)

文法事項は左に赤線、重要語は右に青線を引き、解釈すること。

年 間 指 導 計 画

1. 教科・科目、担当者

教科・科目	授 業 担 当 者	学年・コース	単位数
数学・数学探求	小水内 俊彦	3年・文I	6単位

2. 使用教科書・副教材

使用教科書(出版社)	なし
使用副教材(出版社)	リンク数学I・A+II・B受験編(数研出版)など

3. 各期の学習内容・評価方法

学期	学 習 内 容	評 価 方 法
前 期 中 間	基本公式、定理の確認 基本問題や代表的な問題の演習を繰り返す 数と式、2次関数、図形と計量、データの分析、 場合の数・確率、図形の性質	授業中の発言、態度、 提出物(週末課題等) 小テスト 考査
前 期 末	基本公式、定理の確認 基本問題や代表的な問題の演習を繰り返す 式と証明、複素数、図形と方程式、三角関数、 指数関数・対数関数、微分積分、ベクトル	授業中の発言、態度、 提出物(週末課題等) 小テスト 考査
後 期 中 間	第基本公式、定理の確認 基本問題や代表的な問題の演習を繰り返す 数列 センター試験に向けた演習や過去問に取り組む	授業中の発言、態度、 提出物(週末課題ノート等) 小テスト 考査
後 期 末		

4. 学習方法(ノートの取り方、家庭学習の方法、その他留意点等)

<ul style="list-style-type: none"> ・提出物は、期限までの提出すること。 ・評価は4観点で行います。興味・関心の項目があるので、友だち同士協力して学習すること。授業中、しっかりと発言し、積極的に取り組むこと。 ・公欠は休みではありません。公欠での授業は自分で補充すること。 ・小テストは、授業の確認点検です。予習復習を毎日取り組むこと。

年 間 指 導 計 画

1. 教科・科目、担当者

教科・科目	授 業 担 当 者	学 年 ・ コー ス	単 位 数
数学・数学探求	榊原 秀	3年・理系	6単位

2. 使用教科書・副教材

使用教科書(出版社)	なし
使用副教材(出版社)	リンク数学Ⅰ・A＋Ⅱ・B受験編（数研出版）など 2019・駿台 センター試験実践問題集 数学ⅠA、数学ⅡB

3. 各期の学習内容・評価方法

学期	学 習 内 容	評 価 方 法
前 期 中 間	基本公式、定理の確認 基本問題や代表的な問題の演習を繰り返す 数と式、2次関数、図形と計量、データの分析、 場合の数・確率、図形の性質	授業中の発言、態度、 提出物（週末課題等） 小テスト 考査
前 期 末	基本公式、定理の確認 基本問題や代表的な問題の演習を繰り返す 式と証明、複素数、図形と方程式、三角関数、 指数関数・対数関数、微分積分、ベクトル	授業中の発言、態度、 提出物（週末課題等） 小テスト 考査
後 期 中 間	第基本公式、定理の確認 基本問題や代表的な問題の演習を繰り返す 数列 センター試験に向けた演習や過去問に取り組む	授業中の発言、態度、 提出物（週末課題ノート等） 小テスト 考査
後 期 末		

4. 学習方法(ノートの取り方、家庭学習の方法、その他留意点等)

<ul style="list-style-type: none"> ・問題集への書き込みを可とする。 ・提出物は、期限までの提出すること。 ・評価は4観点で行う。あらかじめ設問に取り組み授業に臨むこと。 ・授業中の発問にはしっかりと発言することを期待する。 ・小テストを定期的に行う。授業の確認点検であり、復習に毎日取り組むこと。

年 間 指 導 計 画

1. 教科・科目、担当者

教科・科目	授 業 担 当 者	学年・コース	単位数
数学・数学Ⅲ	小水内 俊彦	3年・理系	6単位

2. 使用教科書・副教材

使用教科書(出版社)	新編 数学Ⅲ (数研出版)
使用副教材(出版社)	チャート式基礎と演習数学Ⅲ (数研出版) など

3. 各期の学習内容・評価方法

学期	学 習 内 容	評 価 方 法
前 期 中 間	第1章 複素数平面 第2章 式と曲線 第3章 関数 第4章 極限	授業中の発言、態度、板書説明 提出物 (課題演習プリント等) 小テスト 考查
前 期 末	第5章 微分法 第6章 微分法の応用 第7章 積分法とその応用	授業中の発言、態度、板書説明 提出物 (課題演習プリント等) 小テスト 考查
後 期 中 間	第7章 積分法とその応用	授業中の発言、態度 提出物 (週末課題等) 小テスト 考查
後 期 末		

4. 学習方法(ノートの取り方、家庭学習の方法、その他留意点等)

<ul style="list-style-type: none"> ・提出物は、期限までの提出すること。特に課題演習プリントは、小テスト対策にもなりますので、必ず提出する。 ・評価は4観点で行います。興味・関心の項目があるので、友だち同士協力して学習すること。授業中の発言、黒板での説明は口頭試問対策ともなりますので、しっかりと発言、積極的に取り組むこと。 ・公欠は休みではありません。公欠での授業は自分で補充すること。 ・小テストは、課題演習プリントが基本です。予習復習を毎日取り組むこと。

年間指導計画

1. 教科・科目、担当者

教科・科目	授業担当者	学年・コース	単位数
世界史 B	古市 浩	3年	4単位

2. 使用教科書・副教材

使用教科書(出版社)	山川出版世界史 B
使用副教材(出版社)	世界史10分テスト (山川出版社) 世界史のミュージアム (とうほう) 流れ図で攻略世界史 (山川出版社)

3. 各期の学習内容・評価方法

学期	学 習 内 容	評 価 方 法
前期 中間	・アジア諸地域の繁栄 ・近世ヨーロッパ世界の形成 ルネサンス、宗教改革、大航海時代	提出物 小テスト 授業観察 考査 等
前期 末	・ヨーロッパ諸国の海外進出 ・近代ヨーロッパおよびアメリカ世界の成立 ・欧米における近代国民国家の発展	提出物 小テスト 授業観察 考査 等
後期 中間	・アジア諸地域の動揺 ・帝国主義とアジアの民族運動 ・二つの世界大戦	提出物 小テスト 授業観察 考査 等
後期 末	・冷戦と第三世界の成立 ・現在の世界	提出物 小テスト 授業観察 考査 等

4. 学習方法(ノートの取り方、家庭学習の方法、その他留意点等)

前年度の履修生かを生かし、引き続き「歴史の流れ」をよく見極めてください。ただし、因果関係も時代が進むにつれ、流れは複雑化してきます。“風が吹けば桶屋が儲かる”という諺通り行かず、まるで異常気象のように、突発的な事件や紛争が世界各地で引き起こされていく。世界史Bを選択した諸君の目には、教科書がこのように思えて仕方がない時もあることでしょう。しかし、歴史に限らず、何事も原因がなければ結果は生じないのです。独裁政権も暴君も、ある日突然現れることは決してありません。特に、近現代史は民衆の行動が政治に大きく関わってきます。権力者は常にその動向を意識し、支配を試みては成功と失敗を繰り返してきました。皆さんは冷静に、客観的に、しかしながら同時に時代を築いた人々の情熱を五感で感じ取り、それぞれが「世界史を見る目」を完成させてくれることを期待します。

年 間 指 導 計 画

1. 教科・科目、担当者

教科・科目	授 業 担 当 者	学年・コース	単位数
政治・経済	夏谷健一	3年普通科文Ⅰ・文Ⅱ	2

2. 使用教科書・副教材

使用教科書(出版社)	政治・経済（東京書籍）
使用副教材(出版社)	ベストセレクションセンター試験 2019 政治・経済重要問題集(実教出版)

3. 各期の学習内容・評価方法

学期	学 習 内 容	評 価 方 法
前 期 中 間	現代の政治 民主政治の基本原則・日本国憲法の基本原則・日本 政治機構	提出物 小テスト 授業観察 考査 等
前 期 末	現代の政治 現代政治の特質と課題 現代の経済 現代経済のしくみ・日本経済の発展と産業構造の変 化	提出物 小テスト 授業観察 考査 等
後 期 中 間	現代の経済 福祉社会と日本経済の課題・国民経済と国際経済 現代の政治 現代の国際政治	提出物 小テスト 授業観察 考査 等
後 期 末	進路対策授業	提出物 小テスト 授業観察 考査 等

4. 学習方法(ノートの取り方、家庭学習の方法、その他留意点等)

授業前に配布する要点プリントをノートに貼付し、見開きで板書事項等をまとめていく。
提出物は期日を守って提出する。

年 間 指 導 計 画

1. 教科・科目、担当者

教科・科目	授 業 担 当 者	学年・コース	単位数
地理歴史・地理B	伊 藤 拓	3年・文系	4単位

2. 使用教科書・副教材

使用教科書(出版社)	新詳地理B(帝国書院) 新詳高等地図(帝国書院)
使用副教材(出版社)	最新地理図表GEO (第一学習社)

3. 各期の学習内容・評価方法

学期	学 習 内 容	評 価 方 法
前 期 中 間	II部 現代世界の系統地理的考察 ・環境問題 ・資源と産業（農業の地域区分、農業の現状と課題） ・食糧問題（発展途上国・先進国・日本の食糧問題）	授業プリント・考査 課題等の提出物 小テスト 授業観察、作業の取り組み
前 期 末	・世界のエネルギー・鉱山資源（エネルギー資源、化石燃料、電力） ・資源・エネルギー問題	授業プリント・考査 課題等の提出物 小テスト 授業観察、作業の取り組み
後 期 中 間	・世界の工業（工業の発達、立地、現状と課題） ・世界の人口問題（発展途上国、先進国、日本） ・村落と都市（村落の形態、都市の機能） ・民族と宗教、領土問題	授業プリント・考査 課題等の提出物 小テスト 授業観察、作業の取り組み
後 期 末	III部 現代世界の地誌的考察 ・東アジア、東南アジア、南アジア、西アジア、ヨーロッパ、アングロアメリカ（一部は課外で実施）	授業プリント・考査 課題等の提出物 小テスト 授業観察、作業の取り組み

4. 学習方法(ノートの取り方、家庭学習の方法、その他留意点等)

授業ごとに配付する授業プリントは、その時間に学習する内容をまとめながら完成させる。ノートの左側に貼り、右側は板書用に空けておくこと。ノートは、定期考査終了後に提出すること。

評価は考査の他に、課題を中心とする提出物、小テスト、普段の学習状況等をもとにする。教科書の図表や写真は、地域の現状や課題を考える題材であり、授業でも、図表や写真をもとに考えることが比較的多い。知識があるかだけでなく、資料をもとに自分で考え、自分の言葉で表現することも重要である。

年間指導計画

1. 教科・科目、担当者

教科・科目	授業担当者	学年・コース	単位数
地理歴史・地理B	伊藤 拓	3年・理系	3単位

2. 使用教科書・副教材

使用教科書(出版社)	新詳地理B(帝国書院) 新詳高等地図(帝国書院)
使用副教材(出版社)	最新地理図表GEO (第一学習社)

3. 各期の学習内容・評価方法

学期	学 習 内 容	評 価 方 法
前期 中間	Ⅱ部 現代世界の系統地理的考察 ・環境問題 ・資源と産業（農業の地域区分、農業の現状と課題） ・食糧問題（発展途上国・先進国・日本の食糧問題）	授業プリント・考査 課題等の提出物 小テスト 授業観察、作業の取り組み
前期 末	・世界のエネルギー・鉱山資源（エネルギー資源、化石燃料、電力） ・資源・エネルギー問題	授業プリント・考査 夏季休業課題、その他の課題 小テスト 授業観察、作業の取り組み
後期 中間	・世界の工業（工業の発達、立地、現状と課題） ・世界の人口問題（発展途上国、先進国、日本） ・村落と都市（村落の形態、都市の機能） ・民族と宗教、領土問題	授業プリント・考査 課題等の提出物 小テスト 授業観察、作業の取り組み
後期 末	Ⅲ部 現代世界の地誌的考察 ・東アジア、東南アジア、南アジア、西アジア、ヨーロッパ、アングロアメリカ（一部は課外で実施）	授業プリント・考査 冬季休業課題、課題等の提出物 小テスト 授業観察、作業の取り組み

4. 学習方法(ノートの取り方、家庭学習の方法、その他留意点等)

授業ごとに配付する授業プリントは、その時間に学習する内容をまとめながら完成させる。ノートの左側に貼り、右側は板書用に空けておくこと。ノートは、定期考査終了後に提出すること。

評価は考査の他に、課題を中心とする提出物、小テスト、普段の学習状況等をもとにする。教科書の図表や写真は、地域の現状や課題を考える題材であり、授業でも、図表や写真をもとに考えることが比較的多い。知識があるかだけでなく、資料をもとに自分で考え、自分の言葉で表現することも重要である。

なお、文系より1単位少ないが進度はほぼ同じなので、事前に教科書を読んで学習内容を把握しておくことが望ましい。

年間指導計画

1. 教科・科目、担当者

教科・科目	授業担当者	学年・コース	単位数
地理歴史科・日本史B	熊谷拓也	3年・文I・II	4単位

2. 使用教科書・副教材

使用教科書(出版社)	詳説日本史B (山川出版社)
使用副教材(出版社)	詳説日本史10分間テスト (山川出版社) 最新日本史図表新版二訂 (第一学習社)

3. 各期の学習内容・評価方法

学期	学 習 内 容	評 価 方 法
前 期 中 間	第7章 幕藩体制の展開 第8章 幕藩体制の動揺	GW特別課題 学習プリント 10分間テストの取り組み 考査等
前 期 末	第8章 幕藩体制の動揺 第9章 近代国家の成立	夏季課題 学習プリント 10分間テストの取り組み 考査等
後 期 中 間	第9章 近代国家の成立 第10章 二つの世界大戦とアジア 第11章 占領下の日本	学習プリント 10分間テストの取り組み 考査等
後 期 末	第12章 高度成長の時代 第13章 激動する世界と日本	学習プリント 10分間テストの取り組み 考査等

4. 学習方法(ノートの取り方、家庭学習の方法、その他留意点等)

「歴史学習は暗記するものではなく思考するものである」「歴史を学ぶことは今後の生き方を知ることである」

【授業】プリント(予め配付する)を使って授業を展開します

【予習】次の授業の範囲について教科書をあらかじめ読むことで理解は深まります

【復習】10分間テストの問題を確実に解くことで基本事項が定着します

【課題】長期休業には課題が出ます。取り組み状況を含めて評価対象となります。課題テストがある場合には課題から出題されます

授業に集中して臨む、予習で教科書を読み込む、10分間テストで基本事項を定着させる、課題に前向きに取り組む、以上のことをきちんと成し遂げることが勉強する、ということです。このことを継続して実践しながら、自分なりの学習方法を確立させることが大切なことです。最終的に、自分なりの勉強方法で勉強するようになると、本物になります。

年間指導計画

1. 教科・科目、担当者

教科・科目	授業担当者	学年・コース	単位数
地理歴史科・日本史B	熊谷拓也	3年・理	3単位

2. 使用教科書・副教材

使用教科書(出版社)	詳説日本史B (山川出版社)
使用副教材(出版社)	詳説日本史10分間テスト (山川出版社) 最新日本史図表新版二訂 (第一学習社)

3. 各期の学習内容・評価方法

学期	学 習 内 容	評 価 方 法
前 期 中 間	第7章 幕藩体制の展開 第8章 幕藩体制の動揺	GW特別課題 学習プリント 10分間テストの取り組み 考査等
前 期 末	第8章 幕藩体制の動揺 第9章 近代国家の成立	夏季課題 学習プリント 10分間テストの取り組み 考査等
後 期 中 間	第9章 近代国家の成立 第10章 二つの世界大戦とアジア 第11章 占領下の日本	学習プリント 10分間テストの取り組み 考査等
後 期 末	第12章 高度成長の時代 第13章 激動する世界と日本	学習プリント 10分間テストの取り組み 考査等

4. 学習方法(ノートの取り方、家庭学習の方法、その他留意点等)

「歴史学習は暗記するものではなく思考するものである」「歴史を学ぶことは今後の生き方を知ることである」

【授業】プリント(予め配付する)を使って授業を展開します

【予習】次の授業の範囲についてあらかじめ教科書を読むことで理解は深まります

【復習】10分間テストの問題を確実に解くことで基本事項が定着します

【課題】長期休業には課題が出ます。取り組み状況を含めて評価対象となります。課題テストがある場合には課題から出題されます

授業に集中して臨む、予習で教科書を読み込む、10分間テストで基本事項を定着させる、課題に前向きに取り組む、以上のことをきちんと成し遂げることが勉強する、ということです。このことを継続して実践しながら、自分なりの学習方法を確立させることが大切なことです。最終的に、自分なりの勉強方法で勉強するようになると、本物になります。

年 間 指 導 計 画

1. 教科・科目、担当者

教科・科目	授 業 担 当 者	学年・コース	単位数
理科・科学と人間生活	森田 義広	3年・文Ⅱ	2単位

2. 使用教科書・副教材

使用教科書(出版社)	新訂版 科学と人間生活 (実教出版)
使用副教材(出版社)	科学と人間生活 新訂版 演習ノート (実教出版)

3. 各期の学習内容・評価方法

学期	学 習 内 容	評 価 方 法
前 期 中 間	1章 科学と技術の発展 2章 物質の科学 1節 材料とその利用	出席率、授業態度 小テスト、提出物 定期考査
前 期 末	2節 食料と衣料	出席率、授業態度 小テスト、提出物 定期考査
後 期 中 間	3章 生命の科学 1節 生物と光 2節 微生物とその利用 4章 光や熱の化学 5章 宇宙や地球の科学	出席率、授業態度 小テスト、提出物 定期考査
後 期 末		

4. 学習方法(ノートの取り方、家庭学習の方法、その他留意点等)

<ul style="list-style-type: none"> ・授業は、内容を理解すること、必要事項をしっかりとメモすること。 ・ノートは家庭学習でまとめる。(定期考査持ち込み可)
--

年 間 指 導 計 画

1. 教科・科目、担当者

教科・科目	授 業 担 当 者	学年・コース	単位数
理科・理科探究	森田 義広	3年・文I	3単位

2. 使用教科書・副教材

使用教科書(出版社)	生物基礎（東京書籍） 化学基礎（数研出版）
使用副教材(出版社)	ニューグローバル生物基礎（東京書籍） サイエンスビュー生物総合資料（実教出版） リードα化学基礎（数研出版）

3. 各期の学習内容・評価方法

学期	学 習 内 容	評 価 方 法
前 期 中 間	総復習 問題演習	出席率、授業態度 小テスト、提出物 定期考査
前 期 末	総復習 問題演習	出席率、授業態度 小テスト、提出物 定期考査
後 期 中 間	総復習 問題演習	出席率、授業態度 小テスト、提出物 定期考査
後 期 末		

4. 学習方法(ノートの取り方、家庭学習の方法、その他留意点等)

<ul style="list-style-type: none"> ・授業は、内容を理解すること、必要事項をしっかりとメモすること。 ・ノートは家庭学習でまとめる。(定期考査持ち込み可)
--

年 間 指 導 計 画

1. 教科・科目、担当者

教科・科目	授 業 担 当 者	学年・コース	単位数
理科・化学	中野 勝久	3年・理系	4単位

2. 使用教科書・副教材

使用教科書(出版社)	化学 (数研出版)
使用副教材(出版社)	化学の必修整理ノート (文英堂)

3. 各期の学習内容・評価方法

学期	学 習 内 容	評 価 方 法
前 期 中 間	第3編 無機物質 第1章 非金属元素 第2章 金属元素 (I) 第3章 金属元素 (II)	出席、授業態度 演習プリント (口頭試問含) 実験プリント 考査 等
前 期 末	第4編 有機化合物 第1章 有機化合物の分類と分析 第2章 脂肪族炭化水素 第3章 アルコールと関連化合物	出席、授業態度 (口頭試問含) 演習プリント 実験プリント 考査 等
後 期 中 間	第4章 芳香族化合物 第5編 天然有機化合物 天然有機化合物 天然高分子化合物 第6編 合成高分子化合物 高分子化合物の性質 合成高分子化合物	出席、授業態度 (口頭試問含) 演習プリント 実験プリント 考査 等
後 期 末	化学 総合演習	

4. 学習方法(ノートの取り方、家庭学習の方法、その他留意点等)

<ul style="list-style-type: none"> ・予習は教科書を読むこと。特に有機化学では化合物名が多く出てくるので、系統立てて暗記をしなければならない。口頭試問の対象とする。 ・プリントを利用した演習を実施するので、復習では演習を繰り返すこと。
--

年 間 指 導 計 画

1. 教科・科目、担当者

教科・科目	授 業 担 当 者	学年・コース	単位数
理科・生物	森田 義広	3年・理系	4単位

2. 使用教科書・副教材

使用教科書(出版社)	生物 (東京書籍)
使用副教材(出版社)	ニューグローバル生物 (東京書籍) サイエンスビュー生物総合資料 (実教出版)

3. 各期の学習内容・評価方法

学期	学 習 内 容	評 価 方 法
前 期 中 間	第4編 生物の特徴 2章 動物の行動 3章 植物の環境応答 第5編 生態と環境 1章 個体群と生物群集	出席率、授業態度 小テスト、提出物 定期考査
前 期 末	2章 生態系の物質生産とエネルギーの流れ 3章 生態系と多様性 第6編 生物の進化と系統 1章 生命の起源と生物の編成 2章 進化のしくみ 3章 生物の系統	出席率、授業態度 小テスト、提出物 定期考査
後 期 中 間	第1編～第6編の復習	出席率、授業態度 小テスト、提出物 定期考査
後 期 末		

4. 学習方法(ノートの取り方、家庭学習の方法、その他留意点等)

<ul style="list-style-type: none"> ・授業は、内容を理解すること、必要事項をしっかりとメモすること。 ・ノートは家庭学習でまとめる。(定期考査持ち込み可)
--

年 間 指 導 計 画

1. 教科・科目、担当者

教科・科目	授 業 担 当 者	学年・コース	単位数
理科・物理	佐々木 倫郎	3年・理系	4単位

2. 使用教科書・副教材

使用教科書(出版社)	物理 (数研出版)
使用副教材(出版社)	リード Light ノート 物理 (数研出版) WINSTEP 物理 (ラーンズ)

3. 各期の学習内容・評価方法

学期	学 習 内 容	評 価 方 法
前 期 中 間	力と運動 剛体 運動量の保存 円運動と万有引力	日々の課題 考査 等
前 期 末	熱と気体 熱とエネルギー 気体のエネルギーと状態変化 電気と磁気 静電気力 電場と電位	日々の課題 考査 等
後 期 中 間	電気と磁気 コンデンサー 直流回路 電流と磁場、電磁誘導	日々の課題 考査 等
後 期 末	物理演習	

4. 学習方法(ノートの取り方、家庭学習の方法、その他留意点等)

教科書の例題は最低でも目を通してから授業に臨むこと。授業で板書をノートに書き写しても何一つ勉強になっていないので、必ず家で復習の解き直しをすること。やたらと問題集をやりがる生徒がいるが、教科書の例題が解けずに、難しい問題に挑んでも得るものは少ない。

年 間 指 導 計 画

1. 教科・科目、担当者

教科・科目	授 業 担 当 者	学年・コース	単位数
英語・英語表現Ⅱ	大井 千恵子	3年・文Ⅱ	2単位

2. 使用教科書・副教材

使用教科書(出版社)	BIG DIPPER English Expression Ⅱ (数研出版)
使用副教材(出版社)	表現のための英語構文ノート (桐原書店)

3. 各期の学習内容・評価方法

学期	学 習 内 容	評 価 方 法
前 期 中 間	Part I Lesson 13～17 比較・関係詞	プリント 小テスト 授業の活動 考査 等
前 期 末	Part I Lesson 18～22 仮定法・話法・否定・無生物主語	プリント 小テスト 授業の活動 考査 等
後 期 中 間	Part II、Part III まとまった内容を英語で伝えることの初歩を学ぶ。	プリント 小テスト 授業の活動 発表
後 期 末		

4. 学習方法(ノートの取り方、家庭学習の方法、その他留意点等)

前期は教科書に沿って文法を確認し、その表現を使うことができるように繰り返し短い作文の演習をします。また、基礎の復習も授業中に行います。

後期はこれまでの総合演習としてまとまった内容を伝えることの初歩を学び、発表ができるように練習します。

年 間 指 導 計 画

1. 教科・科目、担当者

教科・科目	授 業 担 当 者	学年・コース	単位数
英語・コミュニケーションⅢ	菊池尚子	3年・文I理	4単位

2. 使用教科書・副教材

使用教科書(出版社)	Vivid English Communication III (Daiichi Gakushusha)
使用副教材(出版社)	Cheer 3000(いいずな書店) Listening Age 10 (美誠社) 英語 40 分プレノート (数研出版)

3. 各期の学習内容・評価方法

学期	学 習 内 容	評 価 方 法
前 期 中 間	Lesson 1 Happy Nations Lesson 2 “Gamification” Games May Save the Worlc Lesson 3 Spider Silk Spun into Violin Strings	プリント 小テスト 授業の活動 考査 等
前 期 末	Lesson 4 A Girl Goes on Dancing Lesson 5 Can Cellphone Recycleing Help African Gorillas?	プリント 小テスト 授業の活動 考査 等
後 期 中 間	Lesson 6 Gagaku, the Music of the Universe センター演習	プリント 小テスト 授業の活動 考査 等
後 期 末		

4. 学習方法(ノートの取り方、家庭学習の方法、その他留意点等)

- ・語彙力をつけるために、英単語集 Cheer を週末課題に使用し、週明けの授業で単語のテストをする。
- ・授業の理解を深めるために、予習プリント(授業者作成)に取り組む。
- ・英語の自己表現力を高めるために、テキストのトピックに合った英文を書く。
- ・授業の中で、自分の意見を英語で発表する。
- ・大学入試に向けて、センター試験の過去の問題に取り組む。

年 間 指 導 計 画

1. 教科・科目、担当者

教科・科目	授 業 担 当 者	学年・コース	単位数
英語・英語表現Ⅱ	大井 千恵子	3年・文Ⅰ、理系	2単位

2. 使用教科書・副教材

使用教科書(出版社)	BIG DIPPER English Expression Ⅱ (数研出版)
使用副教材(出版社)	英文法・語法問題 600 (いいずな書店)

3. 各期の学習内容・評価方法

学期	学 習 内 容	評 価 方 法
前 期 中 間	Part 1 Lesson 13～17 比較・関係詞	プリント 小テスト 授業の活動 考査 等
前 期 末	Part 1 Lesson 18～22 仮定法・話法・否定・無生物主語	プリント 小テスト 授業の活動 考査 等
後 期 中 間	Part 2 Lesson 1～15 場面に応じた様々な表現	プリント 小テスト 授業の活動 考査 等
後 期 末		

4. 学習方法(ノートの取り方、家庭学習の方法、その他留意点等)

教科書で学習した内容を演習で復習する。授業は必ず予習してのぞむこと。

年 間 指 導 計 画

1. 教科・科目、担当者

教科・科目	授 業 担 当 者	学年・コース	単位数
保健体育・体育	澤村勇一・長谷川仁 菊池 暁	3年	2・3単位

2. 使用教科書・副教材

使用教科書(出版社)	
使用副教材(出版社)	Active sports 2016 (大修館書店)

3. 各期の学習内容・評価方法

学期	学 習 内 容	評 価 方 法
前 期 中 間	<ul style="list-style-type: none"> ・体づくり運動 ・陸上競技 (スポーツテスト) ・球技 (ネット型) 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業参加の仕方や意欲、態度 ・個人記録票の活用 ・タイム計測
前 期 末	<ul style="list-style-type: none"> ・水泳 ・球技 (ベースボール型) ・体育理論 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業参加の仕方や意欲、態度 ・タイム計測 ・技能テスト ・小テスト
後 期 中 間	<ul style="list-style-type: none"> ・球技 (選択制) ・ダンス ・体育理論 	<ul style="list-style-type: none"> ・発表会の開催 ・自己評価票の記述内容 ・小テスト
後 期 末	<ul style="list-style-type: none"> ・球技 (選択制) 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業参加の仕方や意欲、態度 ・グループ内での相互評価

4. 学習方法(ノートの取り方、家庭学習の方法、その他留意点等)

<ul style="list-style-type: none"> ・個人やペアでの補強運動(体づくり運動)で、自他の体の調子を整え、体力を高めるための運動が自主的にできるようにする。 ・陸上競技、水泳では記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わいながら、運動の効率を高めるようにする。 ・球技から自己に適した運動を2～3種目選択し、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、作戦や状況に応じた技能や仲間と連携した動きを高めてゲームが展開できるようにする。 ・体育理論では、豊かなスポーツライフの設計の仕方について理解できるようにする。
--

年 間 指 導 計 画

1. 教科・科目、担当者

教科・科目	授 業 担 当 者	学 年 ・ コー ス	単 位 数
芸 術 ・ 音 楽Ⅲ	中 村 桂 子	3 年 ・ 選 択	2 単 位

2. 使用教科書・副教材

使用教科書(出版社)	音楽Ⅲ (教育出版)
使用副教材(出版社)	MUSIC NOTE (啓隆社)

3. 各期の学習内容・評価方法

学 期	学 習 内 容	評 価 方 法
前 期 中 間	【鑑賞】日本の歌(唱歌) 【音楽史】音楽史プレゼンテーション	活動への意欲・関心・態度 ワークシート プレゼンテーション
前 期 末	【器楽】ピアノ演奏(片手弾き) 【鑑賞】ミュージカル	活動への意欲・関心・態度 ワークシート 実技テスト
後 期 中 間	【器楽】ピアノ演奏(両手弾き) 【鑑賞】遠野の伝統文化を探る	活動への意欲・関心・態度 ワークシート 実技テスト
後 期 末	【歌唱】合唱 【器楽】ピアノ演奏、アルトリコーダーアンサンブル 【鑑賞】ミュージカル2	活動への意欲・関心・態度 ワークシート 実技テスト

4. 学習方法(ノートの取り方、家庭学習の方法、その他留意点等)

<ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞プリントやチェックシートは、空欄なく記入し提出すること。

年 間 指 導 計 画

1. 教科・科目、担当者

教科・科目	授 業 担 当 者	学年・コース	単位数
芸術・書道Ⅲ	藤村 幸子	3年・文Ⅱ	2単位

2. 使用教科書・副教材

使用教科書(出版社)	書道Ⅲ (光村出版)
使用副教材(出版社)	五体字類、漢和辞典、書学習の資料

3. 各期の学習内容・評価方法

学期	学 習 内 容	評 価 方 法
前 期 中 間	【創作】 ・生活に生かす書を書く。 ・それぞれの作品を鑑賞し、美しさを味わい、特徴を理解する。	作品 学習へ取り組み状況
前 期 末	【楷書】 ・楷書の代表的な古典を臨書する。 ・それぞれの作品を鑑賞し、美しさを味わい、特徴を理解する。	作品 学習へ取り組み状況
後 期 中 間	【行書】 ・行書の代表的な古典を臨書する。 ・それぞれの作品を鑑賞し、美しさを味わい、特徴を理解する。	作品 学習へ取り組み状況
後 期 末	【草書と仮名の書】 ・草書や仮名の書の代表的な古典を臨書する。 ・それぞれの作品を鑑賞し、美しさを味わい、特徴を理解する。	作品 学習へ取り組み状況

4. 学習方法(ノートの取り方、家庭学習の方法、その他留意点等)

<ul style="list-style-type: none"> ・授業には真面目に取り組む。 ・作品はより良いものを期限までに仕上げること。

年 間 指 導 計 画

1. 教科・科目、担当者

教科・科目	授 業 担 当 者	学 年 ・ コー ス	単 位 数
芸術・美術Ⅲ	千葉 裕子	2年・文Ⅱ選択	2単位

2. 使用教科書・副教材

使用教科書(出版社)	高校美術3 (日本文教出版)
使用副教材(出版社)	画集、図鑑、事典など

3. 各期の学習内容・評価方法

学 期	学 習 内 容	評 価 方 法
前 期 中 間	【絵画／表現・鑑賞】 芸術家と作品 ・ 作品を選び模写をする。 ・ 作品や作家について調べて発表する。	活動への意欲・関心・態度 ワークシート 作品の内容
前 期 末	【デザイン/鑑賞・表現】 メッセージを伝えるデザイン ・ テーマにそってポスターの絵を描く。 ・ 美術にかかわる仕事を知る。	活動への意欲・関心・態度 ワークシート 作品の内容
後 期 中 間	【デザイン/表現・鑑賞】 環境と美術 ・ 紙など身近な素材を使ってあかりをデザインする。 ・ 美術にかかわる仕事を知る。	活動への意欲・関心・態度 ワークシート 作品の内容
後 期 末	【デザイン・彫刻/表現】 日常生活と美術 ・ 木で食器を作る。 ・ 美術にかかわる仕事を知る。	活動への意欲・関心・態度 ワークシート 作品の内容

4. 学習方法(ノートの取り方、家庭学習の方法、その他留意点等)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 各題材のねらいに応じた実技課題に真面目に取り組み、期限までに完成させて提出すること。 ・ 鑑賞ワークシートや小テストのためのプリントには、空欄なく記入し提出すること。 ・ 材料、用具の扱いの際は、先生からの注意事項を守り、安全に留意し制作すること。
--

年 間 指 導 計 画

1. 教科・科目、担当者

教科・科目	授 業 担 当 者	学年・コース	単位数
家庭・フードデザイン	牛崎 芳恵	3年・文Ⅱ選択	2単位

2. 使用教科書・副教材

使用教科書(出版社)	フードデザイン (実教出版)
使用副教材(出版社)	なし

3. 各期の学習内容・評価方法

学期	学 習 内 容	評 価 方 法
前 期 中 間	食生活と健康 栄養素のはたらきと食事計画 日常食1	考查 実習
前 期 末	食品の特徴・表示・安全 食育標語 郷土食 鍋つかみ作成	考查 実習 作品
後 期 中 間	調理の基本 料理様式とテーブルコーディネート 季節のおやつ	考查 実習
後 期 末	食育 日常食2 ランチョンマット作成	

4. 学習方法(ノートの取り方、家庭学習の方法、その他留意点等)

卒業後の自立した家庭生活を意識しながら、食生活全般について学習します。
調理実習以外にも、食生活をコーディネートする環境を整えることにも注目しています。そのため、ランチョンマット作りや鍋つかみなどの製作も行います。
実習では、積極的に調理活動に参加し、調理技術の習得と向上に努めてもらいます。